

平成 25 年 2 月 5 日
日本原子力発電株式会社

D-1 破砕帯とせん断面に関する調査について

当社の敦賀発電所敷地内の破砕帯については、昨年 6 月以来継続して調査を実施中であるが、去る 1 月 28 日の第 2 回評価会合での指摘を踏まえ、以下の調査を実施する。

1. D-1 破砕帯の連続性の調査

当社はこれまで D-1 トレンチ北側のピットで確認した D-1 破砕帯（G 断層）について、2 号機原子炉建屋を挟んで北側（図 1 の①②）と南側（図 1 の③④）で調査したトレンチ、ボーリングコア、露頭の薄片観察結果から、D-1 破砕帯の最新活動面のずれの方向（変位センス）が一貫して正断層及び右横ずれセンスで一致していることから一連の破砕帯であることを確認している。

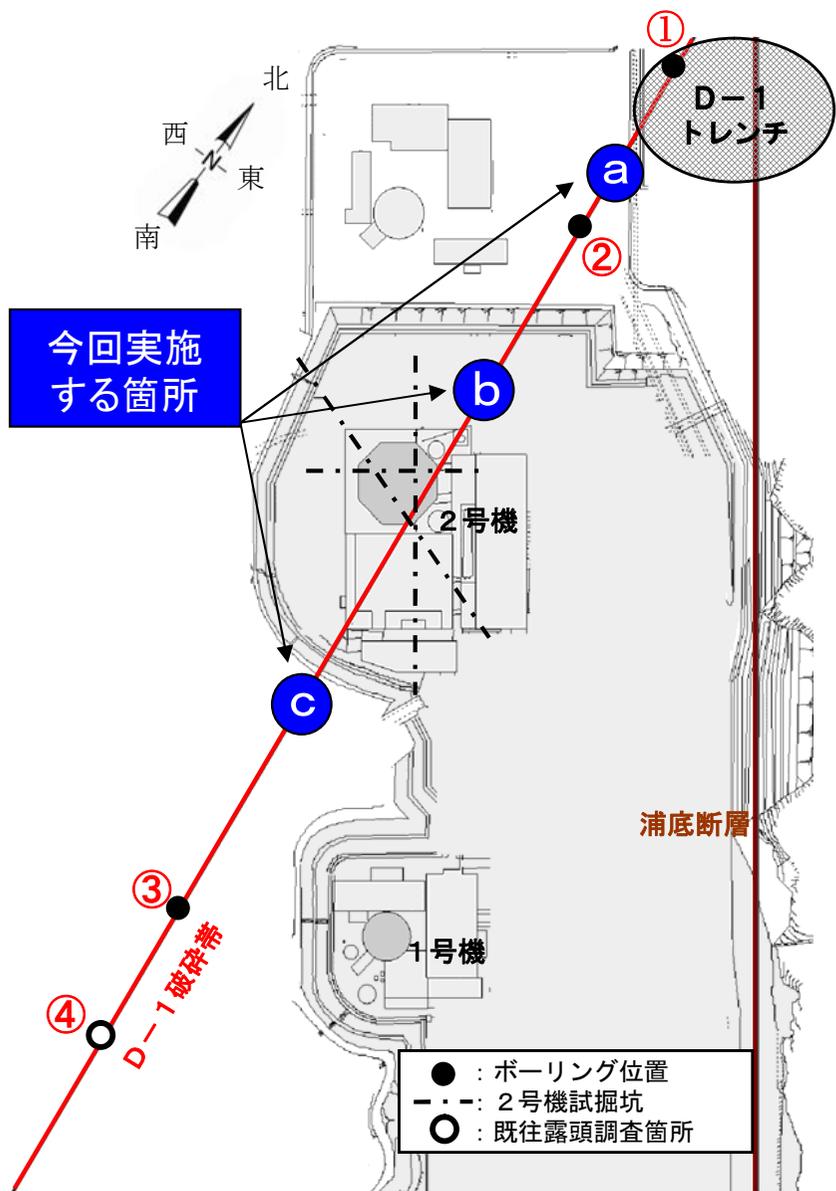
先の第 2 回評価会合において、連続性の根拠は明確でない旨の指摘を受けたので、それを踏まえ調査データの密度を上げるため、更に 2 号機原子炉建屋に近接した 3 ヶ所（図 1 の㉓㉔㉕）で調査を実施する。

2. せん断面（K 断層）の調査

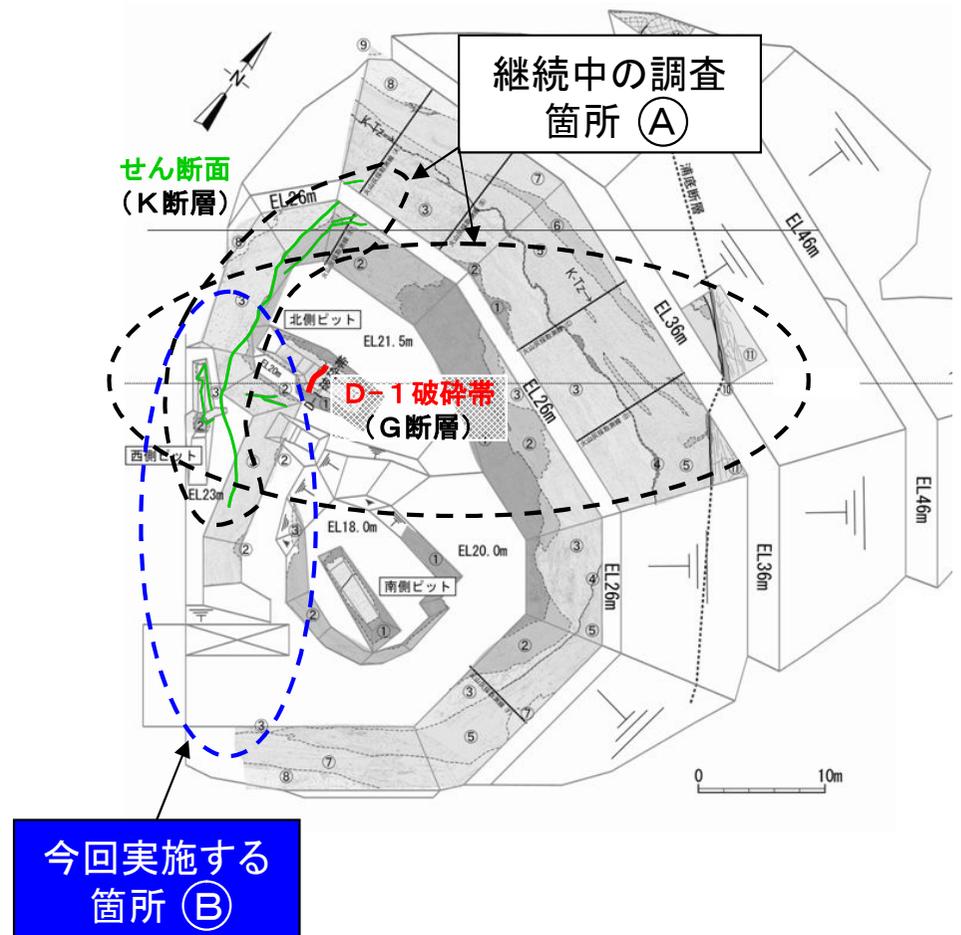
当社は現在 K 断層がどのような原因で形成されたかを明らかにするため、D-1 トレンチ北側ピット付近（図 2 ㉖）で調査を継続中であるが、第 2 回評価会合において、せん断面（K 断層）がどのような形状、走向をしているか明らかにする必要がある旨の指摘を受けたので、それを踏まえその状況を詳細に把握するため、更に西側ピット付近（図 2 ㉗）においても調査を実施する。

なお、上記の調査については、諸手続き、掘削作業等を踏まえ、本年 4 月を目途に実施し、できるだけ早く新たなデータを入手したいと考えているが、今後の積雪の多寡や掘削場所の状況等により数週間程度の遅れを余儀なくされる場合もありうる。

以 上



【図1】発電所とD-1破碎帯の位置関係（イメージ図）



【図2】D-1トレンチ拡大図